

## 京都工芸繊維大学同総会近畿支部第15回セミナー



- ・ 日程； 令和2年2月15日(土)、
- ・ 場所； 京都工芸繊維大学・工織会館
- ・ 講師； 藤井照夫氏 (昭和49年機械工学科卒、文化財デジタルサポート)  
元大日本スクリーン株式会社 (現株式会社 SCREEN ホールディングス)
- ・ 講演テーマ； 『 会社・人生を振り返って 』



( 懇親会 )



( 藤井照夫様 )



( 襖絵の例 )

### < 藤井氏の講演から >

藤井照夫氏は、上記の会社へ入社後に、半導体、印刷製版機器、カラープロッターの開発に携われた後、今回講演の大型コピー機の開発をされました。人体をそのサイズのままコピーする機械(アゼロ・オリジネーター)を開発されました。東京ゲームショウに出展されて大好評でした。従来のようにカメラで写した場合は、レンズを通して、実物とは違ったサイズ、色に変換された記録として残ります。この大型コピー機は実物の大きさ、色をそのままをスキャンして記録する画期的なものでした。但し、立体を面でとらえるものであり、複数のセンサーで感知して、目で見るのと同じような画像、色度、明度の再現、精緻な線の表現などに多くの課題があったようです。但し、使用頻度の高い用途はなく、文化財を記録としてありのまま保存されるのに重宝されました。上図の襖絵を1枚ずつスキャンして実物大で絵を画像として保存に使われています。国立博物館の蔵品などの記録作成にも使用されています。大型機械であり、国宝をスキャン撮影のために博物館や寺院から他の場所へ外へ持ち出すことは難しい。スキャンする機械を解体して、美術品の近くで組立てをでき、尚且つ精緻な収録をすることができる性能も求められます。日本の文化財の宝庫である京都で、この研究を後押しされた経営者の心意気、完成へ持ってこられた努力に拍手を贈りたく思います。講演の中で、いろんな写真を拝見させていただきましたが、工業所有権に抵触することも考えられ、本報告には掲載していません。藤井照夫様には、お忙しい折にたいへん有意義な講演をありがとうございました。

( 文責；河島博 )